

●座談会



出席者

渋谷 栄一
国井 澄
野本 醇
竹岡 羊子
久守 昭義
米坂 ヒデノリ

司会 国井 澄

国井 全道展も来年は二十周年を迎え年毎に充実した会になり、中央画壇にも新進の作家を送って参りましたが、今後一層の発展とまた、若々しい瀟刺とした会として進んで行きたいと存じ、今日は各部門から新進の会員の皆さんに集っていただき、絵画では野本さん、久守さん、竹岡さん、版画では渋谷さん、それに彫塑の方からは米坂さんと、それぞれ違った立場から、色々とお意見を伺い度いと思しますので、どうぞよろしく。

久守 会の運営などはまだまだ若い感じですよ。やはり芸術家の集まりとでもいつた感じでしょね。

野本 二十周年ともなれば全道展としての個性もますますはっきりして北海道の美術の流れの中で、大きな意義を持つことになりますね。

国井 全道展の魅力というと、どんなところにあると思えますか。

久守 本道においては絶対的魅力を感じる会でした。実力のある会員が多いことや、一般出品者でも相当の力量をもたないかぎり入選はできない。受賞、会友、会員にもなかなかない。こんなところに大きなあこがれに似たものを感じていました。

米坂 会員のほとんどが第一線で活躍している作家であるということが大きな魅力だと思いますね。

野本 会の魅力のようなものにひかれて出品して、会員になって、先輩に人間的魅力を感じ(勿論作品に対してでもですよ)人間と作品が一体となったところにこの会の魅惑の原因があるような気がします。

国井 会の魅力という矢張り作品の魅力ということになりますか？

久守 会の魅力は当然作品ですが、会そのものが、芸術に対して非常に質の高いものを求めているのが魅力だと思います。



野本 作品の魅力もさること乍ら、芸術に対する構え方の魅力もありますね。

渋谷 会の魅力といわれますと、会員の責任ですね。結局は作品に魅力を感じるようにしないと。

竹岡 当然のことだと思います。

国井 会員といえば、会員になることによって、自由な立ち場で仕事ができるのではないのでしょうか。

久守 たしかにそうした点では、自由で伸び伸びした感じがありますが、やはり会員としての責任を感じますね。

野本 それはある程度言えるような気がしますね。画面に一本の線を引くにしても、なにか自由の魅力がありますが、それだけ責任を感じて……

竹岡 しかし、裏返すと、その魅力は個人の責任というかたちで返って来ますから、恐ろしい気がしますね。

国井 会員の良い作品に魅力と返りがあるのは当然ですね。それから世代の違いからの審査に対するきびしさについて、一般出品者の方が良くいうのですが。

久守 しかし、きびしさの魅力というものもあるのではないのでしょうか。私なんかそうしたものがあつたからこそ意地でも頑張りつなげてきたんじゃないかと思えますね。

野本 私など、あまり世代ということは考えないのですが、やはり作品に対するきびしさで、つなげているということが出来るかも知れませんね。



渋谷 審査の時間のとり方ですがね。限られた時間内にたくさん絵を見るわけですが、良く見られるかどうかですね。

野本 ある程度の時間は必要でしょうね。だけど作品を見た瞬間に自分の生命と触れあうものがある、つまり空間芸術としての語りもあるわけですよ。

国井 作品のうち、最初見て『ぐっ』とひきつけられるような作品などはそこを見逃さないように、また「じわじわ」とその良さの表われる作品には見逃がしもあるかも知れないが、1審、2審とやるので、まず、

見逃しはないでしょう。

野本 最近の版画とその魅力ということについてはどうですか。これは油絵にも言われることですが……

渋谷 本質的には、油絵と変わらないと思います。ただ芸術的内容よりも技術的な面の修得が早くできるので、技術におぼれ易いようです。

国井 版画の魅力が具象に移りつつあるとか……そういう動き方はどうですか……

渋谷 具象、抽象にかかわらず内容がよければよいわけです。しかし具象的な作品には形の表面だけをとらえて本質的なつつ込みの足りない場合が多い。僕の場合、芸術的な感銘は「抽象」だと思いますね。

国井 どんなところにつつま込みが足りないか、技法ではなく聞かせてやれる？

渋谷 芸術観、すなわち、思想ですね。抽象の場合には、これがなけりや描けない。



国井 具象の解釈、すなわち、物の形をとる時にどんな心構えでとるか。これはよほどの信念がなければ、弱さを暴露してしまう。具象、抽象共、同じ厳しさでありながらね。

久守 具象、抽象とそれほどこだわらなくても良いと思います。どちらにしても結果的には芸術に対する思想の問題だと思います。例えば、一番大切なのは、絵を描かせる、そういう生命力というか、そういう問題が大事で、これに抽象にも具象にもいえると思うんですが……

野本 作品は自分の感情に対する所産なのだが、実際は絵具の中で具体的な思索を求める。その辺あたりの本質的な問題が……

渋谷 思想的内容を持っていなければ本質的なものの表現はできないと思います。

国井 かつては家を描くにも、形に対する概念があるが、それをゆがめて描こうが、テクニックを超越し

北海道で生まれる!!
トヨーゴム靴
東洋ゴム工業株式会社 札幌トヨーゴム株式会社

和食・洋食はおいしさいっぱいの…
パーラー
ニシムラ
さっぽろ駅前 TEL 7291-4

た、それでよいのであって、視覚的なテクニックに注視するのでおかしなことになる。

波谷 形があると安心するのではないだろうか。

野本 形がすでにあるということは楽ですね。しかし実際はないですよ。むしろ形をぶちこわす仕事が多いですよ。

波谷 具象、抽象の解釈の仕方はいろいろあるので。

国井 それはその人の思想の問題、その人の高さにもよるといっていいわけ？

波谷 全道展の場合には抽象、具象に捉われないで、良いものを採って行くということですね。

国井 それでは、先に戻りまして、会の魅力は各会員と出品者の人たちの作品ということになりましたが、皆さんそれぞれ製作されて、作品が会場に並べられた時に、観に来られた人たちに解って貰う喜びとか、また、理解されない苦しみといったものがあると思いますが。その点、どうですか？

波谷 理解されない場合、特に苦しいとも思いませんね。本当によい作品ならば、いつかは理解されるでしょうから。



米坂 観る人に解って貰った時は楽しいですね。しかし、その逆に解って貰えなかったりすると気になったり表現しようとしたものが表現できなかった時の作品が矢張り解って貰えないようですね。そんなことを考えると、一般の人の眼が怖いような気がしますね。

竹岡 私は以前は気になりました。はっきりした意図にもとづいて製作したつもりなのですが、手許を離れると何となく心許なくて、その上解らないなどといわれますと、もうショックで……いままも余り自信がなかったせいでしょけれど……いままも余り自信はありませんが解ってもらいたい気で描くことはありません。

久守 解るとか解らないとかいうことについては、それほど気にしていませんね。

野本 解る、解らないという意味が問題ですよ。僕の絵など、ほとんどの人が首を傾げますよね。けど見た人たちはみんな宿題として持ち帰っているんだと勝手に解釈して……作家と観賞者との距離を近づけたいものだと思っているんです。

国井 私たちは、個人個人で自分の製作をするわけですが、矢張り展示会となると、結局それが、道民一札幌市民の多くの人たちとつながって行くことになるわけですが。

波谷 大衆に理解され受け入れられる作品を作ろうとの意識は特別なのですが、道内に生活している作家の一人として、良い作品を生み出すことが、北海道の文化向上につながって行くことではないですか？



竹岡 最近、絵画人口の増加は驚くべきですね。絵の具を買う層にしましても、絵描きを除いて、学生、一般、主婦、OL（オフィスレディ）サラリーマン、重役さんと、大変なものです。望ましい傾向だと思います。そういう方たちが、どしどし描いて全道展に出品して下さるといいと思います。先輩という立場の私たちは、良い作品を作るべく努力しなければならぬのは、いうまでもないことですが……

野本 一般の人びとの作品をみる目が厳しくなりました。公募展だと何か作家が作家同志の批評を気にすることが多くあるのですが、それだといつ迄たっても鑑賞者との結びつきができないですし、作品も向上しないということになりますね。

久守 作品の解る、解らないといったことは、余り気にしないで、こうした展示会の時には、できるだけ、多くの人びとに鑑賞してもらうことが先決問題で、一般鑑賞者でも回数を重ねて見るうちには、理解も深まりなにかを汲み取ってくれるものと信じております。従ってそうした機会にできるだけ、PRして、観て貰うことが大切だと思います。

国井 会場のことでなにか……

波谷 現在の会場では、会員をはじめ出品者がほとんど1点しか並べられない状態ですが、その作家を理解する上に少くともう点ぐらい並べられる会場が是非欲しいと思います。東京の美術館にある版画研究室のように、版画をやり度い人がだれでも気軽に研究できる場所も欲しいと思います。

野本 美術館も具体的に設計図まででき上って、嬉しいことですね。何といても「ある」と「ない」との違いはねえ……

久守 美術館ができることは美術家においても一般市民の人たちにとっても非常に嬉しいことです。何といても美術作品はそうした特設の会場で鑑賞しな



れば作品が可哀そうです。本当にその作品の良さを認識できませんからね。

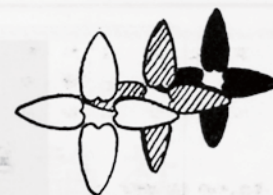
国井 いまのお話にもありましたように、道立美術館建設も漸く本格的気運に乗ってききましたが、是非、立派な美術館の実現を祈りたいと思います。また、美術館は画家や彫刻家など、美術家だけのものでなしに、一般の道民、市民の人たちのものとして愛されて行くよう、重ねて希望したいと思います。本日はお忙しい中を、本当に有難うございました。

MEMO

北欧の香味を札幌のライラックに結んだ

さっぱり・サブレ

化粧函入 150円・化粧缶入 300円・500円



ロバパン

0351-234781・228058・718638 札幌

国旗 校旗 萬国旗 組合旗 旗・幕・幟 附属品 カップ・バッチ



株式会社 山 禮

山禮式国旗掲揚総発売元 (実用新案登録第16317号)

札幌市南1条西7丁目12番地 電話 03011233012236741255036 振替口座 小 樽 2909番 受信略号 「サッポロ」ヤマレイ 専務取締役 山 本 禮 作